

令和7年度 ほっとなみ地域ネットワーク会議 まとめ

(1)目的

個別ケースの検討を通して、身寄りがないため支援に困難を抱えるケースが多数見受けられた。地域に暮らす身寄りのない人の医療や介護の連携方法を講義や事例、グループワークにて学び、今後も増加していく身寄りのない方への適切な支援に繋げていけるよう理解を深める。

(2)内容

- ・講義「地域に暮らす方への支援現状と課題-身寄りのない方の支援-」
富山県介護支援専門員協会 副会長
南砺市地域包括支援センター 所長 竹内 嘉伸 氏
- ・事例報告
やなせ苑在宅介護支援センター 寺脇 美智代氏
市立砺波総合病院 患者総合支援センター おあしす 林 景子 氏
砺波市地域包括支援センター 谷口 さと、高崎 彩香
- ・各圏域ごとに分かれグループワークによる意見交換

(3)参加者

民生委員、地域福祉コーディネーター、介護保険サービス事業所、市社会福祉協議会、在宅介護支援センター、薬局 等 計 64名

(5)課題と取り組み

(課題)

支援をしてくれる家族・親族がいない身寄りのない方が増加傾向にあり、緊急時や意思決定が必要な場面で支援が困難なケースが増えている。身寄りの無い方が安心して生活を送るための支援方法について考える必要性が高まっている。

(取り組み)

- ・身寄りが無いことの定義、身元保証人、引受人の、法律上の取り扱いについて講義を受けた。成年後見制度など、財産管理の支援を受けられる制度について紹介があった。また、身寄りのない方の対応事例を振り返りながらグループワークを行なった。
- ・グループワークでは、親族や近所の方との付き合いを大切にすること、もしもの時の意向について元気なうちから話しあっておくことがよいといった意見があげられた。ACP やエンディングノートについて普及啓発してほしいといった意見もあった。